

監査のフロが書く内部監査報告書

— 指摘事項と改善提案および監査意見の見直し —

◆事例に学ぶわかりやすく説得力のある内部監査報告書の書き方◆

- 日 時 ● 大阪開催：2018年2月2日（金）10：00～17：00 <12:30-13:20 昼食・休憩>
東京開催：2018年2月9日（金）10：00～17：00 //
- 会 場 ● 大阪：新大阪『大阪コロナホテル』JR新大阪駅 東口から徒歩2分
東京：麹町 企業研究会『セミナールーム』
- 講 師 ● 藤井 範彰氏 公認会計士・公認内部監査人・米国公認会計士（現在 inactive）

●プログラム●

【ご経歴】

大手監査法人で約20年会計監査に従事する中で、法人内の会計監査アプローチの普及および研修活動や公認会計士協会本部での国際委員会副委員長、会計制度委員会副委員長、監査基準委員会委員などの活動にも専念。その後十余年は内部監査をはじめ内部統制、リスク管理、不正調査等に特化して、アンダーセン、PwCおよびアーンスト・アンド・ヤング（E&Y）の各監査法人で活動し、2012年新日本有限責任監査法人（E&Y）シニア・アパートナー退任後はボルボグループで日本の内部監査統括の経験も経て、現在も同グループ会社UDトラックス（株）の監査役を務める。

また藤井範彰公認会計士事務所代表として監査や不正対応等の研修・執筆活動にも従事。最近の著書『内部監査のプロが書く監査報告書の指摘事項と改善提案』（同文館出版2016年11月、日本内部監査協会青木賞受賞）、「内部監査の課題解決法20」税務経理協会、論文「内部監査報告書の本質論と実務対応」日本内部監査協会「月刊監査研究」2017年5月号、「海外監査の検討課題」同2013年11月号、「リスクマネジメントに対する内部監査の対応」同2012年3月号掲載、他多数。

【開催に当たり — 藤井講師からのメッセージ】

企業の不祥事対策や経営管理への貢献という点から内部監査の重要性が見直されてきています。内部監査が従来の準拠性監査に留まらず、指摘や改善提案を通して、業務の改善や組織運営さらには戦略面にまで広く経営をサポートすることが期待されるというのは世界的な潮流でもあります。

とりわけ内部監査の価値は、成果物としての監査報告書でどれほど経営に価値のある指摘と改善提案を提示できるかで決まります。これは今日の内部監査にとっては最重要課題の一つです。ところが、監査報告書が社外秘の文書であり、監査意見や指摘・提案の様式や内容が各社各様で標準化に馴染みにくいこともあって、見直しをすることもなく従来の慣行を踏襲しがちです。また監査意見の書き方にも課題が多く、監査意見のアシュアランス的な難しさや問題の所在に気づかずに、監査意見の文言が、本来その前提となるはずの監査活動の実態を伴っていない例などが散見されます。これは形式的なようでも監査の根幹にかかわる問題でもあります。

本来は、監査の結果に応じて監査意見を正しい書き方で表明し、指摘事項や改善提案を形式的・理論的に整理して、わかりやすく説得力のある監査報告にまとめる能力が求められるところです。これは実践的であると共に理論的なアプローチを要する優れて専門的な作業であるため長年の経験で身に付くとは限りません。これら監査報告のスタンダードを事例と共に見ていただき各社の状況に応じて改善に役立てていただくのが今回のねらいです。

本セミナーでは、最初に内部監査全体の課題として、その組織上の立ち位置やリスクベースを導く体制や計画策定のポイント、続けて監査報告書の全体構成と監査意見のパターンを解説します。その上でケーススタディ方式で指摘事項や改善提案の事例を見ながら、どこに問題があるかを実感し、どのような考え方で体系的に整理し改善したら良いのかを検討し、監査アプローチの実践的な視点やロジック及び作成上の留意点を説明します。

監査の実務経験の長さにかかわらず、また関連する管理部門の方々にも、それぞれの立場やニーズに応じて内部監査報告の本質に迫る知見や実務に活かせるノウハウをこの機会に修得していただければと思います。

●参加要領●

- 受講料：1名（資料代、昼食費含む） ※東京・大阪 口欄のいずれかにチェックをお願いします。

正会員	42,120円	一般	45,360円
-----	---------	----	---------

[本体価格 39,000円 本体価格 42,000円]

* 会員企業一覧は以下の当会のホームページにて、ご確認いただけます。http://www.bri.or.jp

申込書に所定事項ご記入の上、下記担当者あて FAX または E-mailにてお送りください。

折り返し、受講票・会場略図・請求書をお送り致します。

※お申込後のキャンセルは原則としてお受けしかねますので、お申込者のご出席頂けない際は、代理の方のご出席をお願い申し上げます。

●申込先

一般社団法人 企業研究会 経営管理研究グループ

担当)居代 E-mail:ishiro@bri.or.jp

〒102-0083 千代田区麹町 5-7-2

TEL 03-5215-3516/FAX 03-5215-0951~2

<input type="checkbox"/> 大阪[2/2] 172932-0202	監査のプロが書く内部監査報告書 —指摘事項と改善提案および監査意見の見直し—		
<input type="checkbox"/> 東京[2/9] 172927-0202	//		
会社名	〒		
住所	〒		
TEL	FAX		
部課 役職	フリガナ	お名前	
e-mail			

★本講座は、2017年青木賞を受賞した講師著「内部監査のフロガ書く監査報告書の指摘事項と改善提案」(同文館出版、2016年11月刊)の第1部、第2部の内容を主なベースとして構成しています。

●プログラム●

第1部：【報告書の背景】重要性を増すリスク・ベースの内部監査体制

1. 内部監査の位置づけと目指す方向を考える

監査報告の在り方を考えるに当たって、最初に内部監査の企業ガバナンスにおける位置づけ、および法定監とは一線を画する内部監査の目指す方向を見てみましょう。これによって監査活動の構造を確認して自社固有の内部監査の立ち位置や方向性などの内部監査のミッションを認識していただき、これにベクトルを合わせた監査報告のあり方を意識してもらうためです。内部監査体制のデザインや見直しの際に課題となる検討項目を整理して紹介します。

2. 経営に対する説明責任を果たすリスク・ベース監査の仕組み作り

内部監査におけるリスク評価から年次計画の策定、個別監査の実施の流れの中で、意外とできていないのがリスクベースの仕組みづくりと経営に対する内部監査の責任解除のプロセスです。今日の日本企業のニーズを踏まえた実務応を解説します。

第2部：監査報告書の全体構成と経営志向の内部監査人の心得

1. 監査報告書の全体構成と記載事項の標準様式

次に内部監査報告書の全体構成とそれぞれの記載項目に関する論点と作成上の留意点を参考例を見ながら解説します。参考書式の確認というよりも、それが監査のプローチの違いにどうつながるかという視点が大事です。

2. 監査目的と状況に合わせて書き分ける監査意見の標準モデル

積極的あるいは消極的アシュアランスの意味を十分理解していない企業や監査意見と報告書本文あるいは監査アプローチとの不整合に気づかない企業が少なくありません。まともに考えると監査の本質にかかわる重要な問題です。IIA基準やリスクベースとの関係も含めて、その考え方と実務対応を解説します。知らないところでアシュアランスの基本ルールを踏み外していないか、標準的な文言と考え方を参考に確認してください。

3. 上空30メートルから俯瞰する内部監査プロフェッショナルの視点

監査のプロにふさわしい監査報告書における問題の取り上げ方や指摘や提案を書く際の心構えについてお話しします。

第3部：コントロールをベースにした業務監査における指摘・提案

1. コントロールの不全を探す～3つの改善提案

一般的な業務監査を前提にして、改善提案を洗い出す視点やその際の切り口と報告書に記載すべき記載項目の内容について解説します。この構造をはっきりと認識することでメタボな文章をスリム化したり説明不足を補うための目的意識と方向感覚が生まれます。

2. 指摘事項、リスク記載および改善提案の記載内容の事例検討

これらの記載項目について記載方針となる考え方を事例(良い例、悪い例)を見ながら理解を深めます。また監査報告書上の改善提案に対するマネジメントのコメントの解釈について検討します。

3. ケーススタディによる指摘・改善事項をめぐる問題の解決策の検討

さまざまなケーススタディを通して指摘や提案のパターンを理解し、そこで問題となる実務論点を色々な角度から検討します。例えば、指摘事項の内容が、監査のサンプリングやリスク・アペタイトとどのように整合すべきかといった点です。また注意したい指摘や提案の用語の使い方などを紹介します。

第4部：経営インフラに着目する経営監査における指摘・提案

—業務監査とは違う経営監査の指摘・提案の捉え方—

ガバナンスやリスクマネジメントを含んだいわゆる経営監査は、経営にインパクトが大きく貢献度の高い重要分野です。しかし経営監査の指摘や改善提案では業務監査とは違ったアプローチが必要となります。業務監査とどのように違うかを経営層に理論的に説明する準備も必要でしょう。こうした経営監査の考え方を戦略リスクとの関係も含めて整理し、経営監査の指摘や提案の実践的なあり方を事例を使って解説いたします。

第5部：【終わりに】最終成果物から振返る監査アプローチの合理化

監査報告書の改善は監査報告のときだけの問題ではなく、本来、その成果物と整合性のある監査アプローチを計画・実施の段階から考えることが必要です。この視点から監査アプローチの合理化をモデル例を示して簡単にポイント解説いたします。

質疑応答 & 意見交換 個別のご質問・ご相談にも対応いたします。

★弊会ホームページからも申込み可能です。「トップ」→「セミナー・会員研究会」→「03. 監査」